

冬支度 松並木こも巻き 三島

立冬の7日、三島市の国道1号沿いにある箱根松並木で、1970年から続く風物詩「こも巻き」が行われた。冬場の病害虫を駆除



松にこもを巻き付ける職人＝三島市

し、松並木を保護するために実施している。市内の造園業者でつくる「三島環境緑化研究会」（加々見勝八郎会長）の会員10

人が、全長約1キに並ぶ直径35センチ以上の約210本にこもを巻き付けた。上は弱く、下は強く縄を巻き、根元から約1・5メートルの高さに固定。越冬するため地中に降りようとする害虫を中に誘い込んで駆除する。取り外しは来年3月の啓蟄（けいちつ）に行う。加々見会長によると、今季は多雨の影響で虫が少なく、葉の色が良く、枯れたのは2本のみだったという。市によると、箱根松並木は江戸幕府が1604年の東海道大改修の際に植えたのが起源。太平洋戦争の際に燃料として多くが伐採されたが、再び植えられて現在は274本が並ぶ。（三島支局・岡田拓也）

記事を読んで、問いに答えましょう。

- ①「箱根松並木」が最初に植えられたのはいつですか。（ **1604年（の東海道大改修の際）** ）
- ②この松並木に「こも巻き」を行う理由を記事から読み取って書きましょう。
（例）冬場の病害虫を駆除し、松並木を保護するため。
- ③この「こも巻き」には、どんな工夫がありますか。
（例）上は弱く、下は強く縄を巻き、越冬するために地中に降りようとする害虫を中に誘い込んで駆除する工夫。
- ④「箱根松並木」を今後も守っていくためには、どんな工夫や努力が必要だと思いますか。あなたの考えを30字以内で書きましょう（句読点を含みます）。

（例）

- ・こも巻きを続け、松並木の手入れや枯れた松の植え替えも行う。（29字）
- ・松並木やこも巻きの様子を発信し松並木への関心を高めてもらう。（30字） など